

日本語の再発見

スメール文字の影響

「人類で最初に定住し、農耕を始めた民族はスメール人であった」と先に述べたが、それはいつ頃かと言ふと、「今からおよそ八千年前の事」と推定されてゐる。この、長期にわたる定住・農耕といふ安定した生活の中から、“文字”が初めて誕生したのである。

今から八千年も昔に、スメール人は優秀な磨製石器や彩色土器、粘土像などを製作してゐて、安定した生活を営んでゐたことは、その遺物から十分に推察できる。その安定した生活の中で、二千数百年といふ長い年月を経て、“文字”はやっとこの世のものとなつたのである。文字の発明がどんなに大変なものであるかといふ事は、これだけの事を考へてみただけでもよく解らう。

然しながら、スメール人によってひと度文字が作られると、その影響は、比較的短日月のうちに周囲の民族に及び、その文字を借りて自分たち氏族の言葉を表すか、または、エジプトやイソドや中国のやうにすでに高度の文化生活を営んでゐた民族は、それに触発されて、それを参考に自分たち民族の言葉を表すための文字を作つたもののやうである。

然し、真似にせよ、文字を作るといふ事は至難の業であると見え、ス

メール文字に触発されて自分たちの文字を創作したものは、エジプト人とインド人と中国人だけであつた。人類の長い歴史の中で、広いこの世界の中で僅かこれだけである。

だから、スメール文字に触発され、それを手本にして作るにもせよ、「自分たち民族の言葉を直接表した文字」を作るといふ事は、よほど高度の文化に達し、安定した社会生活を営んでゐなければとても出来ない、大変な事業だといふことが解る。

たいていの民族は、自分の力ではとても創作することが出来ないので、先進国の文字の一部を借りて、それをそのままそっくり用ひるのが普通であつた。その“借りる方法”といふのは決して、どこの民族を調べてみても一つの例外もない。その方法といふのは、六書で言ふ“^{かしく}借借”である。